

## 春川忠吉先生の遺曆を祝して

春川忠吉先生には昭和22年2月19日を以てめでたく遺曆の賀の日を迎えられた。

先生は明治20年2月18日雪深くうづもれた北陸の一山村新潟縣中魚沼郡中條村西枯木又に産られた。家は古くから代々その地で農を営まれており、父君も亦そうであつた。その地の小學校に學ばれた先生は更に小千谷に新しく開設された中學校に進まれた。先生の示された抜群の成績は更に上級學校えと言う路を先生に進ませたのである。本當に笈を負つて清水峠を草鞋ばきで越えて東京に出られた先生は明治40年に一高へ入られた。更に同校を卒えられて東京帝國大學農科大學の農學科へと進まれた。大正2年大學を御卒業後は大學院にあつて佐々木忠次郎博士の下で約2年間にわたつて農業昆虫學を専攻された。大正4年10月岡山縣倉敷に大原獎農會の農業研究所が創設されるやその昆虫部の主任として赴任されたのである。

當時の吾が國の應用昆虫學界は昆虫分類學的な仕事はその大半をしめていた。然し先生の仕事はそのような方向には向けられなかつた。農業昆虫學の立場から考えるならば、分類學よりももつと力を入れねばならない方面が多分にある、吾々としては更に突進すべき別の方向があると考えられた先生の御仕事は、自ら他の人々と異なる所があつた。梨姬心喰虫 *Laspeyresia molesta*, 桃葉蜂 *Eriocampoides matsumotonis*, 梨實蜂 *Hoplocampa minuta* など重要な果樹害虫の生活史について次々と研究を發表された。生態的の面の非常に薄かつた吾が國の應用昆虫學界に新しい研究の面を示し一つの轉機を作るものであつた。

大正9年より大正12年まで約2年余にわたつて先生は歐米に留學された。アメリカにあつてはイリノイ大學の Shelford 教授の下にあつて特に動物生態學について研究を積まれた。當時の Shelford の研究室ではいわゆるチンチバツグ *Blissus leu-*

*copterus* の實驗生態學的の研究が着々と進められていたのである。ここに於いて先生の得られた實驗生態學的の研究方法はその後につける先生の研究の方向をしつかりと定めてしまつた様に思われる。アメリカより更にイギリス、ドイツ等のヨーロッパ各國を訪ねて、各地の昆虫の研究機關を視察された。

御歸朝後の先生の痛感されたことは、歐米の昆虫學界に較べて吾が國では特に生態的研究が欠けている事で、先生が「昆虫の生態」と言う啓發的な綜説を筆にされた原因はそれであろう。

大正14年に發表された梨姬心喰虫に関する研究は先生の學位論文であり、詳細を極めたものである。その中でも姫心喰虫の發育と氣温との關係を積算溫度一定説の見地から論ぜられたものは先生のかような研究の第一歩として見る時は興味が深い。當時このような理論的研究のまつたくなかつた吾が國の應用昆虫學界に一の指針を與えたものであり、現在の害虫發生期の予察の理論は一の理論的基礎をここに求めていると見るべきである。この仕事に發したいわゆる實驗生態學的の研究は、その後闊葉蜂 *Tomostethus juncivorus*, 種蠅 *Hylemyia cilicrura*, 二化螟虫 *Chilo simplex*, 切蛆ガガンボ *Tipula aino*, 麥蛾 *Sitotroga cerearella* などの諸害虫に及んだ。これらの中二化螟虫の生態學的研究は先生の特に力を入れられたもので、發育速度、羽化不齊一の原因、棲息密度の變動などの諸問題の解明に努力をはらわれた。その棲息密度についての研究は應用的に言つても害虫發生予察の上に貴重な資料が與えられた点見のがされないものであるが、動物生態學の上から言つても非常にすぐれたものであつた。これに對しては日本學術協會賞を受けられ、また歐米の學界からもすぐれた業績として高く評價された。

かように先生の仕事は主として害虫の生活史、生態の方面に力がそそがれたのであるが、實際的の害虫駆除の面をも決して忘れられた譯ではない。否そこにも先生の大きな業績のあとをうかがうことが出来るのである。ややともすれば實際に流れてしまい、理論的な面の必要性を忘れがちな方面に對して理論的研究の必要を示されたのは先生の御仕事であつた。青酸ガス燻蒸、石灰硫黄合劑の研究、二化螟虫浸水驅除の問題などは若き日の先生が熱情をかたむけられた仕事であり、ハナヒリノキの殺虫効果、クロールピクリン燻蒸の問題、乾熱による麥蛾の驅除などは後年の大きな御勞作である。

京都大學にはそれまでも2回にわたつて講師として農業昆虫學について講義をされたのであるが、昭和11年には教授として赴任せられた。その後、後進の指導に専念される傍、次々と研究の歩を進められた。キスチノミハムシ *Phyllotreta vittata* の生活史、その耐寒性、食性などの研究、セジロウカ *Sogota furcifera* 及びトビロウカ *Nilaparvata oryzae* の生態に関する研究、貯穀害虫の燻蒸劑に関する基礎的研究などを次々と

行われた。

昭和12年に京都大學内に防虫科學研究所が設立されるやその理事となられ、研究の指導を援助され、またその發展に大きな力を盡されたのである。

春川先生は現在の吾が國の生んだ最も卓越した應用昆虫學者である。その旺盛な研究心、するどいしかも正確な觀察力、中正な判斷力、それらの科學者として持つべきあらゆる條件を兼ね持たれた先生は最も秀でた科學者の一人でもある。そのやさしい御心、氣高い御人格、それらは更に先生を偉大ならしめている。

先生は京都大學を定年にて御退官後先生の第2の故郷とも言うべき倉敷に近い岡山縣高松の岡山農業専門學校長として、創設日なお浅い同校の發展にその力を専らかたむけておられる。戦時中いたためにおられた御体も、今や齡を新にせられて舊に倍するように御元氣である。

すべての先生を知る人に代つて、否すべての昆虫に關心をもつ人々を代表して、私はここに先生の御健康ならんことを心より祈るものである。

(内田俊郎記)

登録商標



農 林 省 認 定 農 薬

除 蟲 菊 粉  
除 蟲 菊 乳 劑  
除 蟲 菊 乳 劑 一・五%  
除 蟲 菊 乳 劑 三 %  
除 蟲 菊 エ キ ス

ライオン渦卷蚊取線香

大同除蟲菊株式會社

本社 和歌山縣有田郡箕島町箕島  
支店 大阪市南區末吉橋通三丁目新橋ビル  
箕島工場 和歌山縣有田郡箕島町箕島  
新堂工場 和歌山縣有田郡箕島町新堂  
星尾工場 和歌山縣有田郡保田村星尾

春川忠吉先生御業績目録

1. 鱗翅類に屬する2,3の潜葉虫: (八木誠政と共著) 病虫害雜誌, 4, 94-100, 184-186 (1917)
2. Über die Lebensweise des Pfirsichtriebbohrers, *Laspeyresia molesta* Busck. I. B.O.I.L.F.\* 1: 151-170. (1917) (With N. Yagi)
3. 青酸瓦斯燻蒸に於ける青化加里と硫酸との割合について. 病虫害雜誌, 5, 105-111. (1918)
4. 梨姬心喰虫に就いて. 農學講演集, 1, 75-87. (1918)
5. On the life-history and habits of a peach leaf-miner, *Ornix* sp. B.O.I.L.F. 1, 325-333. (1918)
6. The serpentine leaf-miner of the peach, a species of *Lyonetia*. B.O.I.L.F. 1, 335-348. (1918)
7. 桃葉蜂に就いて. 病虫害雜誌, 6, 47-59. (1919)
8. 藺葉蜂に就いて. 病虫害雜誌, 7, 4-15. (1920)
9. 梨姬心喰虫(桃心折虫)に關する研究. 病菌害虫彙報, 7, 9-74. (1920)
10. 二化螟虫浸水驅除法. 農學會報, No.213, 335-372. (1920)
11. 石灰硫黄合劑に就いて. 病虫害雜誌, 7, 247-252, 312-323, 385-389, 451-459. (1920)
12. 桃の穿葉虫(えかきむし). 農學講演集, 2, 111-118. (1920)
13. Controlling the rice-borer (*Chilo simplex*) by submergence. B.O.I.L.F. 1, 599-628. (1920)
14. Studies on lime-sulphur-mixture. B.O.I.L.F. 2, 1-20. (1921)
15. Studies on the peach saw-fly, *Eriocampoides matsumotonis* Matsumura. B.O.I.L.F. 2, 21-46. (1921)
16. 害虫驅除劑について. 農學講演集, 3, 150-178. (1922)
17. Preliminary report on the toxicity of colloidal sulphur to fish. Proc. Amer. Fish. Soc., 219-224. (1922)
18. 梨姬心喰虫に就いて(第3報). 農學會報, No.252, 749-757. (1923)
19. Second notes on the oriental peach moth, *Laspeyresia molesta* Busck. B.O.I.L.F. 2, 235-258. (1923)
20. 米國應用昆虫學界の概況. 病虫害雜誌, 11, 8-17. (1924)
21. 昆虫の生態について(1). 農學研究, 6, 79-100. (1924)
22. 梨の實蜂について. 農學會報, No.261, 471-485. (1924)
23. Studies on the bionomics of the pear fruit saw-fly, *Hoplocampaminuta* Christ. B.O.I.L.F., 2, 505-519. (1924)
24. 本邦産葉蜂3種の學名に就きて. 動物學雜誌, 37, 39-41. (1925)
25. 昆虫の生態について(2). 農學研究, 7, 121-162. (1925)

\* Abbrev. B.O.I.L.F. = Berichte des Ohara Instituts für landwirtschaftliche Forschungen.

26. 青酸瓦斯燻蒸法に於ける内容積計算法につきて. 病虫害雑誌, 12, 363—369. (1925)
27. 梨姬心喰虫に關する研究, 大原農業研究所特別報告第3號, 1—113. (1925)
28. 梨姬心喰虫の研究(第4報). 大原農業研究所特別報告第3號, 115—157. (1925)
29. 福岡縣に産する蘭葉蜂の1種に就きて(豫報). 病虫害雑誌, 12, 428—432. (1925)
30. 再び青酸瓦斯燻蒸の内容積計算法に就きて. 病虫害雑誌, 12, 487—489. (1925)
31. Studies on the rush saw-fly, *Tomostethus juncisus* Rohwer. B.O.I.L.F., 5, 521—545. (1925)
32. 昆虫の生態について(3). 農學研究, 8, 93—122. (1926)
33. 再び螟虫浸水驅除法に就いて. 農學會報, No.282, 191—198. (1926)
34. Submergence as a control measure for the rice-borer, *Chilo simplex* Butler. B.O.I.L.F., 3, 177—184. (1926)
35. 石灰硫黄合劑について. 農學會報, No.293, 129—147. (1927)
36. 生態學的見地より見たる日本の昆虫相. 農學研究, 10, 1—23. (1927)
37. 梨姬心喰虫に對する硫酸=コチンの効果, (近藤三郎と共著) 農學研究, 11, 65—72. (1927)
38. Studies on the toxicity of lime-sulphur mixture. B.O.I.L.F., 3, 379—404. (1927)
39. 青酸瓦斯燻蒸法發達の沿革. 鳥取農學會報, 1, 171—183. (1928)
40. 蘭葉蜂の冬眠. 昆虫, 2, 229—234. (1928)
41. 梨姬心喰虫の研究(第5報), 農學研究, 12, 61—93. (1928)
42. 蘭葉蜂の研究(第2報), (近藤三郎と共著) 農業及園藝, 3, 1131—1136. (1928)
43. 梨の大敵梨姬心喰虫の經過習性に就きて. 大日本農會報, No.576, 56—65., No.577, 26—31. (1928)
44. 蘭葉蜂の研究(第3報). 農學研究, 13, 290—319. (1929)
45. 種蠅に就いて(豫報). 應用動物學雜誌, 1, 90—94. (1929)
46. 種蠅の經過習性に就いて. 京城農學關係諸學會聯合大會講演集, 509—516. (1929)
47. Relation of temperature to the growth of the oriental peach moth. I. B.O.I.L.F., 4, 67—94. (1929)
48. Further notes on the ruth saw-fly, *Tomostethus juncivorus* Rohwer. B.O.I.L.F., 4, 95—101. (1929)
49. Studies on the rush-saw-fly. III. Relation of temperature to the development of the rush saw-fly. B.O.I.L.F., 4, 181—198. (1929) (With S.Kondo)
50. 種蠅 (*Hylemyia cilicrura* Rondani) に就いて(近藤三郎と共著). 農學研究, 14, 449—469. (1930)
51. 桃葉蜂に關する研究. 農事改良資料, 第14號, (1930)
52. ハナヒリノキの毒力に就きて. 農學研究, 15, 121—147. (1930)
53. 蘭の害虫オホオスグロバチ (*Dolerus harukawai* Waterston) に就きて. (熊代三郎と共著) 農學研究, 15, 148—173. (1930)
54. 蘭葉蜂の研究(第4報), (熊代三郎と共著) 農學研究, 16, 137—164. (1930)
55. 梨皮潜虫の生活史につきて(熊代三郎と共著). 農學研究, 16, 165—195. (1930)
56. Studies on the rush saw-fly. IV. Effect of temperature upon the cocoon period of the rush saw-fly, *Tomostethus juncivorus* Rohwer. B.O.I.L.F., 4, 295—313. (1930) (With S.Kondo)
57. Studies on the seed-corn maggot, *Hylemyia cilicrura* Rondani in Japan. I. On the

- seasonal life-cycle and habits of the seed-corn maggot. B.O.I.L.F., 4, 371—382. (1930) (With S.Kumashiro)
58. On the pear-bark miner, *Acrocercops astaurotea* Meyrick. I. B.O.I.L.F., 4, 475—494. (1930) (With S.Kumashiro)
59. On the bionomics of the larger black-male saw-fly, *Dolerus harukawai* Waterston. B.O.I.L.F., 4, 495—509. (1930) (With S.Kumashiro)
60. ハナヒリノキの殺虫効果につきて. 病虫害雜誌, 18, 293—301. (1931)
61. 二化螟虫の生態學的研究第1報 (高戸龍一, 熊代三郎と共著). 農學研究, 17, 125—163. (1931)
62. 二化螟虫の生態學的研究. 第2報 (高戸龍一, 熊代三郎と共著). 農學研究, 17, 165—183. (1931)
63. ユリミミズ驅除劑としてのハナヒリノキの効果につきて (第1報). 農學研究, 17, 184—200. (1931)
64. ユリミミズに對するハナヒリノキの殺虫効果に就きて. 應用動物學雜誌, 3, 215—216. (1931)
65. Studies on the rice-borer, *Chilo simplex* Butler. I. On the prolonged emergence period of the moth in spring. B.O.I.L.F. 5, 177—207. (1931) (With R. Takato and S.Kumashiro)
66. Studies on the rice-borer, *Chilo simplex* Butler. II. Effect of constant temperature upon the development of the rice-borer. B.O.I.L.F., 5, 209—220. (1931) (With R.Takato and S.Kumashiro)
67. 種蠅に就いて第2報 (高戸龍一, 熊代三郎と共著). 農學研究, 18, 363—402. (1932)
68. ユリミミズ驅除劑としてのハナヒリノキの効果に就きて (第2報). 農學研究, 18, 403—414. (1932)
69. ユリミミズに對する2-3の藥劑の毒力に就いて. 農學研究, 18, 415—431. (1932)
70. 天候及氣候と昆虫との關係. 病虫害雜誌, 19, 73—79, 142—147, 227—231. (1932)
71. 梨皮潜虫の生活史及び其の防除法に就いて. 農業及園藝, 7, 1407—1420. (1932)
72. 梨皮潜虫に就きて (第2報). (熊代三郎と共著) 農學研究, 19, 246—261. (1932)
73. 種蠅に就いて第3報 (高戸龍一, 熊代三郎と共著) 農學研究, 19, 262—308. (1932)
74. On the pear-bark miner, *Acrocercops astaurota* Meyrick. II. B. O. I. L. F., 5, 301—310. (1932) (With S.Kumashiro)
75. On the toxic action of Hana-hiri-no-ki and its application for the control of Yuri-mimizu. B.O.I.L.F., 5, 311—324. (1932)
76. The toxic action of certain chemicals on aquatic oligochaetes. B. O. I. L. F., 5, 447—456. (1933)
77. Studies on the seed-corn maggot. II. B.O.I.L.F., 5, 457—478. (1933) (With R. Takato and S.Kumashiro)
78. ユリミミズ驅除劑としての生石灰. 農學研究, 20, 311—319. (1933)
79. 種蠅成虫誘殺試験の成績. 應用動物學雜誌, 5, 113—115. (1933)
80. 種蠅に就きて, 第4報 (高戸龍一, 熊代三郎と共著). 農學研究, 21, 222—259. (1933)
81. 梨姬心喰虫の研究 (第6報). 農學研究, 21, 260—269. (1933)
82. Studies on the seedcorn maggot. III. On the method of control of the seedcorn maggot. B.O.I.L.F., 6, 83—111. (1933) (With R.Takato and S.Kumashiro)

83. クロールピクリン燻蒸に關する2,3の問題に就きて. 病虫害雑誌, 21, 7—10, 87—91. (1934)
84. 加熱によつて麥蛾を驅除すること可能なりや. 農業及園藝, 9, 451—458. (1934)
85. 麥蛾驅除法としての乾熱の効果第1報, (熊代三郎と共著). 農學研究, 22, 269—289. (1934)
86. クロールピクリン燻蒸に關する2,3の問題に就きて. 農學研究, 22, 351—362. (1934)
87. 二化螟虫の生態學的研究第3報, (高戸龍一, 熊代三郎と共著). 農學研究, 23, 1—147. (1934)
88. Studies on the secdcorn maggot. IV. B.O.I.L.F., 6, 219—253. (1934) (With R. Takato and S. Kumashiro)
89. Heat as a means of controlling the angoumois grain-moth. I. B.O.I.L.F., 6, 393—406. (1934) (With S. Kumashiro)
90. Studies on fumigation with chloropicrin. B.O.I.L.F., 6, 407—430. (1934) (With S. Kumashiro)
91. クロールピクリン燻蒸の種子の發芽力に及ぼす影響. 病虫害雑誌, 22, 6—15. (1935)
92. クロールピクリン燻蒸法に就きて. (熊代三郎と共著) 農學研究, 24, 1—36. (1935)
93. 二化螟虫の棲息密度に就きて. 日本學術協會報告, 10, 179—183. (1935)
94. 二化螟虫越冬虫の發育と水分, (高戸龍一, 熊代三郎と共著). 應用動物學雜誌, 7, 108—109. (1935)
95. 越冬二化螟虫羽化の不齊—を來たす原因. 動物學雜誌, 47, 489—500. (1935)
96. 麥蛾に就いて. 農業及園藝, 10, 2053—2059. (1935)
97. 稻作と螟虫. 農業と經濟, 2, 1759—1767. (1935)
98. 二化螟虫の生態學的研究第4報, (高戸龍一, 熊代三郎と共著). 農學研究, 25, 129—154. (1935)
99. 二化螟虫の生態學的研究第5報, (高戸龍一, 熊代三郎と共著). 農學研究, 25, 155—179. (1935)
100. 麥蛾驅除法としての乾熱の効果 (第2報), 加熱時に於ける麥の温度の上昇速度. 農學研究, 25, 180—194. (1935)
101. Studies on the rice-borer. III. On the population density of the rice-borer. B.O.I.L.F., 7, 1—97. (1935) With R. Takato and S. Kumashiro)
102. 鹽類過飽和液に依る濕度調節法の効果. 應用動物學雜誌, 8, 48—54. (1936)
103. 二化螟虫に就いて. 農業, No. 663, 1—10; No. 664, 16—23. (1936)
104. 二化螟虫の生態學的研究 (第6報). 農學研究, 26, 407—425. (1936)
105. 麥蛾に就いて第1報 (熊代三郎と共著). 農學研究, 26, 426—448. (1936)
106. 稻の切蛆に就いて第1報 (熊代三郎と共著). 農學研究, 26, 449—490. (1936)
107. 稻の切蛆の繁殖に對する外圍條件の影響, 應用動物學雜誌, 8, 132—133. (1936)
108. Studies on th rice-borer. IV. B.O.I.L.F., 7, 239—256. (1936) (With R. Takato and S. Kumashiro)
109. Studies on th rice-borer. V. B.O.I.L.F., 7, 257—271. (1936) (With R. Takato and S. Kumashiro)
110. 偶感. 病虫害雑誌, 23, 5—8. (1936)
111. 麥蛾驅除法としての乾熱の効果, 第3報 (熊代三郎と共著), 農學研究, 27, 72—88. (1937)
112. 稻の切蛆に就いて, 第3報切蛆の發育と外圍條件との關係 (熊代三郎と共著). 農學研究, 27, 1—71. (1937)
113. 雜感. 病虫害雑誌, 24, 8—10. (1937)
114. 稻の切蛆に就いて, 第3報稻の切蛆の驅除法 (豫報). (熊代三郎と共著) 農學研究, 28, 305—332. (1937)

115. 生理・生態學的研究と應用昆虫學・植物及動物, 6, 279—284. (1938)
116. 二化螟虫に作用する環境抵抗・農業及園藝, 13, 738—744. (1938)
117. 麥蛾について第2報, (熊代三郎と共著)・農學研究, 29, 1—44. (1938)
118. 麥蛾に關する實驗(講演要旨)・應用動物學雜誌, 10, 127—130. (1938)
119. 稻切蛆の藥劑による驅除法・病虫害雜誌, 25, 9—14. (1938)
120. 羊毛皮革等の虫害防除法・防虫科學, 2, 1—12. (1938)
121. Studies on the life history and bionomics of *Phyllotreta vittata* Fabricius. I. Mem. Coll. Agric. Kyoto Imp. Univ. No. 44, 1—48. (1938) (With M. Tokunaga)
122. 黃條蚤葉虫の研究(德永雅明と共著)・應用動物學雜誌, 11, 116—118. (1939)
123. 黃條蚤葉虫の生活史及び生態に關する研究, II. (德永雅明と共著)・昆虫, 13, 208—221. (1939)
124. 種蠅の研究第5報, 種蠅の1寄生蜂 *Eucoela tanebae* Ishii に就いて, (熊代三郎と共著) 農學研究, 31, 290—306 (1939)
125. 種蠅の寄生蜂 *Eucoela tanebae* Ishii に就いて, (講演要旨)(熊代三郎と共著) 昆虫, 13, 253—254. (1939)
126. 黃條蚤葉虫及びその寄生虫に就いて(德永雅明と共著)・教育農藝, 9, 1233—1238, 1345—1353. (1940)
127. 黃條蚤葉虫の寄生虫に就いて(德永雅明と共著)・應用動物學雜誌, 12, 157—158 (1940)
128. キスヂノミハムシの産卵前期間と産卵期間・應用動物學雜誌, 12, 180—181. (1940)
129. 無題録・あきつ, 2, 151—152. (1940)
130. 藥劑試驗に就いて・病虫害雜誌, 27, 7—11, 103—112. (1940)
131. 害虫の發生と溫濕度・植物及動物, 8, 240—246. (1940)
132. 炭酸瓦斯は昆虫に對して毒作用ありや・病虫害雜誌, 28, 9—13.
133. 貯藏米の害虫と其の防除(一般的考察)防虫科學, 5, 1—8. (1941)
134. 黃條蚤葉虫の食性に就いて(德永雅明, 門脇祥一と共著)・應用動物學雜誌, 13, 175—176. (1941)
135. 黃條蚤葉虫成虫の冬期に於ける耐寒性(豫報)(西川彌三郎と共著)・昆虫, 14, 200—207. (1941)
136. Heat as a means of controlling angoumois grain-moth. II. Velocity of the rise of wheat temperature during heating. B.O.I.L.F., 8, 455—464. (1941)
137. Heat as a means of controlling angoumois grain-moth. III. Resistance to high temperature of the angoumois grain-moth. (2). B.O.I.L.F., 8, 465—475. (1941)
138. 珪藻土の害虫防除効果・病虫害雜誌, 29, 457—460. (1942)
139. 黃條蚤葉虫の成虫の棲息密度の季節的變遷に就いて(西川彌三郎と共著)・應用動物學雜誌, 14, 236—239. (1943)
140. 麥蛾とその防除法, 農業及園藝, 21, 419—422. (1946)



春川忠吉先生